

2021年4月6日

「パナソニック環境ビジョン2050」 中国で当社初のCO₂ゼロ工場※1を実現

パナソニック株式会社は、パナソニック エナジー無錫有限公司（所在地：中国江蘇省無錫市、以下、PECW）において、中国で当社初となるCO₂ゼロ工場を実現しました。

当社は環境経営における長期ビジョン「パナソニック環境ビジョン2050」を2017年6月に策定し、2050年に向けた環境経営の目指す方向を明確に定めて活動を推進しています。その活動の一つ、持続可能な社会を目指した事業推進の位置付けとして、工場の操業においてCO₂を排出しない「CO₂ゼロの工場づくり」をグローバルで目指して取り組んでいます。これまでグローバルで6つのCO₂ゼロモデル工場とCO₂ゼロショールーム(※2)を実現しており、このノウハウを展開することで中国においてもCO₂ゼロ工場を実現しました。

PECWでは、主にリチウムイオン電池、ニッケル水素電池などの二次電池を製造しています。従来の手作業と目視検査を双腕ロボットと画像検査システムに置き換える自動組み立てラインを2018年に導入するなど、高品質かつ高効率なモノづくりへの革新に取り組んできました。CO₂ゼロを実現した具体的な施策としては、工法・工程の革新や先進的な省エネ技術の導入、LED照明の導入などでより少ないエネルギーでモノづくりをするエネルギーミニマム生産の推進とともに、太陽光発電システムの導入、I-REC証書の調達、さらに化石燃料由来CO₂の排出をオフセットするクレジット、屋根貸しスキームの活用などです。20年実績で約4.4万トンのCO₂排出を実質的にゼロとし、これまで実現してきた当社のCO₂ゼロ工場の中で最大の規模となります。

当社ではこれらの取り組みをグローバルに展開することで、「パナソニック環境ビジョン2050」で掲げる、持続可能な社会を目指したCO₂を排出しないモノづくりを着実に推進してまいります。

<PECWのCO₂ゼロ工場実現に向けた具体的な取組みについて>

1. エネルギーミニマム生産の推進

- ・双腕ロボット主体の自動生産ライン構築（2018年度～）：従来同等の消費エネルギーで生産能力10%向上、工程不良削減にも寄与
- ・AIを用いたスマートEMS省エネ自動制御の導入（2019年度～）：導入した工程で最大14%の省エネ
- ・集塵機、ポンプ、排気ファンのインバータ化（2016年度より10台実施完了）：運転周波数約10 Hz削減、CO₂削減330 t-CO₂/年
- ・インバータ式コンプレッサ、真空ポンプ導入（2017年度より3台実施完了）：インバータ化による省エネ、CO₂削減330 t-CO₂/年
- ・LED照明の導入（2018年度～）：蛍光灯、メタルハライドランプ、ダウンライト等、合計13,725か所の交換を完了

2. 太陽光発電システムの導入（2016年度導入、発電容量1.6 MW）

3. I-REC証書の調達

4. 化石燃料由来CO₂の排出をオフセットするクレジットの調達

今後は、省エネルギーの取り組み強化、地中熱など再生可能エネルギーのさらなる活用や、化石燃料より排出されるCO₂を吸収し分離・活用する技術の導入など、自社開発技術を活用した施策も推進してまいります。

※1: CO₂ゼロ工場: 省エネ推進や再生可能エネルギー導入、クレジットの活用などにより、CO₂排出を実質的にゼロとした工場

※2: これまでに実現したCO₂ゼロモデル工場とCO₂ゼロショールーム: パナソニック エコテクノロジーセンター株式会社 (PETEC)、パナソニック エナジーベルギー株式会社 (PECBE)、パナソニック ブラジル有限公司 (PANABRAS ※サンジョゼ、エストレマ、マナウスの計3工場)、パナソニック セントロアメリカーナ株式会社 (PCA)、パナソニックセンター東京

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。
商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。